



田中俊介さん
(金属)

<http://www2.tbb.t-com.ne.jp/syunsuke.c-b/>

切って、叩いて、焼いて、
また叩く。
温かく感じる作品には、
じっくり向き合う時間と
たくさんの気持ちが
込もっていました。

ある先生との出会いをきっかけに田中さんの道は大きく変わりました。
今までやってきた油絵から金属クラフトへと変更。それからはどんどん金属の魅力にまっぴらだったそうです。
「金属はじっくり形を作っているんです。」
切る、叩く、焼く、叩く、焼く…作業は繰り返す。
あまりにも原始的な方法で作品は作られています。そんなじっくりと作品に向き合える時間。きつと、そんな時間のながれは田中さんの性格にぴったりときているのだと感じました。金属を好きになった理由のひとつもそこなのではないでしょうか。
そんな作品作りにかかせない道具も手作りのものがたくさん。中には「これも？」と思ってしまう程の小さな木のかけらもあり、こんなところにも田中さんの細いこだわりを感じました。

「木の道具を使うことで、硬くなり過ぎない。仕上がりが柔らかくなるんです。」
木の道具を使い仕上げられていく金属の表面は、硬さを感じるといふより、どこか柔らかそうな表情をしているように見えてきます。
「綺麗とか完璧じゃなくて、どこか隙があるような…そんな感じのものが良いと思うんです。」
既製品とは違う仕上がりを求めるその気持ちも、金属の冷たさではなく、どこか漂う温かさ結びついているのではないのでしょうか。
そして、もつと金属を身近に感じてもらいたという思いで作られた作品に、沢山の人が惹きつけられているのだと思います。



金属の道具の先に新聞紙を巻き
柔らかさの感じる表面になる様
工夫がされている。

「芸術家ではなくクラフトマンとして、たくさんの人に喜んでもらえるものを作り続けていきたい。」
そこには人生を変えてくれた先生を始め、たくさんの人との出会いが大きな力となっていました。
これから温かさという溢れる作品と出会えるのが楽しみです！



何年も使い、かなりの年季の入った鍋！
長く、大切に使用したくなるものばかり。

